

Choose大学連続講義

「政治とは何か？」

第3回

ソフィストとソクラテス

隠岐一須賀 麻衣

Choose 大学 1月の講義内容

【第1回】「政治」を問うということ

【第2回】古代アテネのデモクラシー

【第3回】ソフィストとソクラテス

【第4回】プラトンによる民主主義批判

1回目 & 2回目の質問やコメントへ(1)

- なぜ古代ギリシアを考察の出発点にするのか？
 - 「政治」を自覚的に捉え、実践するだけでなく考察を残した
 - 宗教的権威と政治的権威が分かれていた

1回目 & 2回目の質問やコメントへ(2)

- なぜ女性が排除されていたのか？
 - それを当然とみなしていた
 - 例外もある(スパルタやプラトンの理想)
 - 例) 17歳以下の市民や外国人の参政権

1回目 & 2回目の質問やコメントへ(3)

- 日常生活で政治の話ができない！
 - 私も悩んでいます！
 - 夕ご飯の話や受動喫煙の話から誘導
してみる？

第2回のポイント

- 「雄弁家」ペリクレスの躍進
→ デモクラシーの制度的完成
- 最高議決機関 = 民会
- 民衆訴追主義

今日の目次

- **PART 1:ソフィスト**
- **COFFEE BREAK:ソクラテスにまつわる噂**
- **PART 2:ソクラテス**



PART 1 ソフィスト

プラトン『国家(ポリテイア)』のパピルス断片

<https://www.ancient.eu>

1.1. 「ソフィスト」…？

- Googleで「ソフィスト 意味」で検索すると…



ソフィスト

詭弁(きべん)を使う人。詭弁家。詭弁学派。

▷ *sophist*

「ソフィア」
= 知恵

1.2. 「ソフィスト」と呼ばれた人たち

- 本来の意味は「知恵のある人」
- 金銭と引き換えで教育を行った専門家
 - 「市民としての徳(卓越性)」の教育
 - 職業的な知識人・教育者

1.3. ソフィストと民主政

- 「市民としての卓越性」

民主政

- 階級や財産によって区別されない「市民」

- 金銭を支払えば誰にでも教える



一部の人たちに独占された
政治の能力と知識

貴族政や王政

1.4. ソフィストによる教育

- 「市民としての卓越性」

- 民会や法廷など、言論を使う場面で発揮

- ← デモクラシーという背景

- 言論を巧みに操る技術 = 弁論術

 弁論術の教師としてのソフィストの登場

1.5. 弁論術(レトリック)とは

- ここでの弁論術:
限定された時間内に**多数者を説得する方法**
 - 「判定を下す」という目的
- 判定者(=聴衆)に
ある種の**感情を抱かせる**

怒り

恐れ

憐み

プラトン『饗宴』

- ❖ 議論の参加者の何人かは二日酔いの状態
- ❖ ソクラテスの外見は「シレノスのよう」
- ❖ お酒に強いソクラテス



シレノス



Coffee
Break

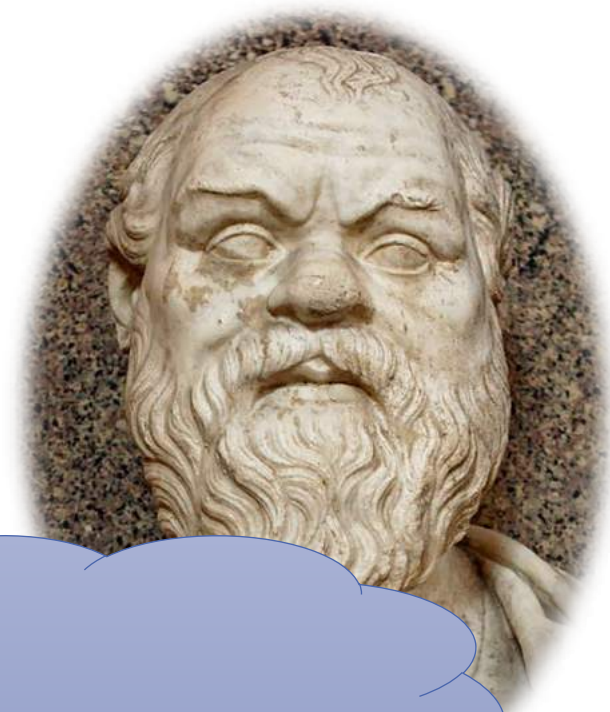
ソクラテスにまつわる噂



PART 2 ソクラテス

2.1. ソクラテスについて

- 著作を何も残さなかった
- プラトンや他の人々が彼の思想を描く
→どこまでがソクラテス本人の思想？
- 哲学史上の超有名人



「政治」と
どうかかわるの？

2.2. ソクラテスの弁論術批判

- プラトン『ゴルギアス』
- 弁論術が作り出す「説得」
 - 理解ではなく、信じ込ませることによる

➡ 弁論術を心得ている者は、専門家よりも大衆を説得できる

病気について
医者よりも
弁論家の方が
説得できる？

ちょっとだけ 脱線...



Joannes Sambucusの挿絵(1564年)

- アリストパネスの喜劇作品『雲』
- 「ソフィスト」ソクラテス
- 借金取りに返済しなくてすむための弁論術

ソフィスト vs.
哲学者ソクラテス... ?

2.3. ソクラテス裁判



ダヴィッド「ソクラテスの死」(1787年)

- 「知識人」ソフィストの批判
 - 知識や知恵それ自体の問い直し
- ソクラテス裁判: 2つの罪状
 - 1) ポリスの神に対する不敬
 - 2) 若者を墮落させている
- ソクラテスによる自己弁護

2.4. 無知の自覚

- デルフォイの神託
- 「ソクラテスより知恵のある者はいない」
- 知恵があると思われる人を訪ね歩く(政治家など)



デルフォイのアポロン神殿跡

2.5. 「無知の自覚」が提起する問題

- 「無知の自覚」
 - 自己と自己の関係
- 拡大すると…
 - 知恵を持つ人は、何を知っているのか？
 - 知恵を持つ人を、我々はどうやって「知恵を持つ」と判断しているのか？

2.6. 「無知の自覚」と政治

- 民主政において「無知の自覚」が暴露する問題
- 何も知らない人たちによる話し合い？

こうした人々によって
政治が営まれて
良いのか？

参考文献

- アリストテレス(戸塚七郎訳)『弁論術』(岩波文庫、1992年)
- アリストパネス(高津春繁訳)『雲』(岩波文庫、1957年)
- プラトン(加来彰俊訳)『ゴルギアス』(岩波文庫、1967年)
- プラトン(納富信留訳)『ソクラテスの弁明』(光文社古典新訳文庫、2012年)
- プラトン(中澤務訳)『プロタゴラス』(光文社古典新訳文庫、2013年)
- プラトン(中澤務訳)『饗宴』(光文社古典新訳文庫、2013年)
- 納富信留「ソフィスト思潮」『哲学の歴史:古代 I』(中央公論新社、2008年)
- 納富信留『哲学の誕生』(ちくま学芸文庫、2017年)
- 廣川洋一『ギリシア人の教育』(岩波新書、1990年)

TO BE CONTINUED...

次回：プラトンと
民主主義批判